

ミュージカル「Stardust Dream」

メインキャストオーディション

<作品の魅力>

プロデューサー 占部 邦素

ミュージカル「スターダストドリーム」は、単なる“中高生が出演する青春ミュージカル”ではありません。

子役時代からレッスンを重ね、さまざまな舞台に立ち、経験を積み重ねてきた実力派の中高生たちが、今の年齢だからこそ出せるリアルな感情と表現力で、真正面から勝負できる作品です。

この作品では、中高生たちが物語の中心に立ち、自分たちの歌、芝居、ダンスで、エネルギッシュにストーリーを紡いでいきます。

大人の俳優が青春時代を振り返って演じるのではなく、まさに今その時代を生きている中高生たち自身が、夢、友情、葛藤、恋心、不安、希望を舞台上で表現します。

そこに、この作品ならではの鮮度があり、説得力があります。

特に、子役時代から舞台に立ってきた子たちにとって、「かわいい」「元気」「上手」「楽しい」という段階を越えて、ひとりの表現者として真価を問われる場になると思っています。

しっかり歌えること、踊れること、台詞が言えること。
もちろん、それはとても大切です。

でも、この作品で本当に大切なのは、その先にあるものです。自分の中にある迷いや弱さ、悔しさ、憧れ、夢への衝動。そうした心の奥にあるものを役に重ね、観客の心に届ける力が求められます。

商業ミュージカルや舞台経験を積んできた子にとって、自分自身の年齢に近い役を、等身大の感情で深く演じられる機会は、実は決して多くありません。

大人が用意した“子どもらしい役”ではなく、今の自分の感性、経験、技術、そして心を総動員して挑むことができます。そこに、大きな成長の可能性があります。

そして、この作品には、唯一小学生でも出演できる「ハルヒ」という特別な役があります。

「ハルヒ」は、単に“小学生枠”として用意された役ではありません。

中高生たちが物語の中心で本気の表現をぶつけ合う中で、その空気に飲まれることなく、同じ舞台上で肩を並べるだけのリアルな演技力、歌唱力、そして確かな存在感が求められる役です。

小学生でありながら、作品の世界の中でしっかりと呼吸し、気持ちを動かし、観客の心に残ることができるか。中高生のメインキャストたちに引けを取らない集中力と表現力を持ち、自分の役割を舞台上で成立させられるか。「ハルヒ」は、そうした力を持つ小学生にとって、年齢を超えてメインキャストの一員として作品に深く関わることができる、非常に価値のある役だと思っています。

また、あえてこの作品を小劇場で上演することにも、大きな意味があります。

観客との距離が近い空間では、役者の表情、息づかい、目線、沈黙、心の揺れまで、手に取るように観客に届きます。大きな舞台装置や派手な演出に頼るのではなく、出演者一人ひとりの集中力、演技力、歌唱力、身体表現が、そのまま作品の力になります。

ごまかしのきかない空間、距離感だからこそ、積み重ねてきた実力が本当の輝きを放つ。怖さもあります。でも、その怖さの中にこそ、舞台に立つ喜びや、成長のきっかけがあるのだと思います。

もちろん、この挑戦は出演者だけで背負うものではありません。

脚本・演出の横山清崇さん、作曲の櫻井幸太さん、振付の丹下仁美さん、音楽監督の滝口律子さん、舞台美術の長峰麻貴さん、映像美術のYOYOMIRACLEさんをはじめ、「ミルコとカギロイの森」でも作品世界を力強く支えてくださった、業界を代表するプロフェッショナルの皆さんが、この作品を、そして出演する皆さん一人ひとりを支えてくれます。

本気で作品と向き合ってくれる大人たちがいる。その中で、子どもたちが本気で舞台に立つ。これは、出演者にとってとても幸せな環境であり、同時に大きな成長につながる経験になるはずです。

作品そのものの魅力は、夢を追いかけることのまぶしさだけでなく、その裏側にある不安や葛藤まで丁寧に描いているところです。夢を持つことは、とても美しいことです。でも、夢に向かって進む中では、思うようにいかない苦しさや、自分だけ取り残されているような焦りを感じることもあります。友情も、ただ仲が良いだけではありません。互いに変化し、ぶつかり、距離ができ、それでもまたつながろうとする。そうした繊細な心の動きも、この作品の大切な魅力です。

だから「スターダストドリーム」は、単純な成功物語ではありません。

夢に向かって走る中で、自分は何者なのか、何を信じたいのか、誰と進みたいのかを問い続ける物語です。出演する中高生たちにとっては、役を演じながら、自分自身の現在地や未来についても向き合う時間になるはずです。

以前、ある日本を代表する劇団の方から、とても嬉しい言葉をいただいたことがあります。

「この作品は、どんなにプロの大人の役者が全力で演じて、どう頑張っても勝てない部分がある。それは、演じている子たちが“役を演じている”のではなく、生身の姿でその役を生きているからだ。」

そして、こうもおっしゃってくださいました。

「この作品は、多くの若者に観てほしい。そして、プロの役者にも観てほしい。
これからの演劇界を明るくしてくれる作品だと思う。」

プロデューサーとして、これほど嬉しい言葉はありませんでした。スタッフと私自身がこの作品に込めてきた想いや、出演者たちが舞台上で放ってきた光を、まっすぐ受け取っていただけたようで、胸が熱くなりました。

そして、この作品の魅力は、舞台上だけで終わるものではありません。

過去の出演者の中には、宝塚音楽学校に合格した子、劇団四季に合格した子、東京藝術大学声楽科や音楽大学に進学した子、大手芸能事務所に所属して活躍している子、多くのミュージカルやコンサートに出演している子、海外の芸術大学で学び続けている子、大学受験に成功して夢を追い求めている子、超大手企業に就職しながら役者を続けている子などがいます。

みんなが同じ道に進んだわけではありません。でも、それぞれが、この作品だけにとどまらず、自分自身の人生という夢のフィールドを走り続けています。

舞台の上で「夢」を演じた経験が、その後の人生の中で、本当に夢を追いかける力につながっている。それは、プロデューサーとして何より嬉しいことであり、この作品を続けてきてよかったと思える大きな理由でもあります。

「スターダストドリーム」は、出演する中高生にとって、単なる出演歴のひとつではなく、自分の中にある表現者としての可能性を信じ、次のステージへ進むための大切な通過点になる作品です。

そして「ハルヒ」に挑む小学生にとっても、年齢に守られるのではなく、実力で作品の中に立つことができる、かけがえのない挑戦の場になるはずです。

今しか出せない声。今しかできない表情。今だからこそ揺れる心。

そのすべてを舞台に乗せて、観客の前で真正面から生きる。

自分の夢と本気で向き合い、自分自身の物語をさらに先へ進めるための、特別な舞台になるはずです。

一人ひとりの中にある小さな光が、舞台の上で星のように輝く瞬間を、私は心から楽しみにしています。

プロデューサー 占部 邦素

